



YAME x UKIHA

これからのこと、それからのこと 地域おこし協力隊コラム



2023年9月号より参画した協力隊新聞部の活動として、ついに私の最後の記事となりました。うきは市の地域おこし協力隊として過ごした3年間を振り返ると、一つひとつは小さな出来事だけど、それらがさまざまなかたちの「輪」になって広がっているように感じます。

移住して、心から大好きになった、うきは市。

この素敵なまちが、この先もずっと続いていくことを心から願っています。だからこそ1年目に Share To Design を開業し、3年目に NPO法人フウチ を立ち上げました。肩書きや組織のためではなく「このまちの未来に、ちゃんと自分の責任を置きたい」と思うようになったから、そして、この卒業制作をつくるきっかけになったのは、一瀬焼の田中さんへの感謝でした。

協力隊になって間もない頃から、田中さんはいつも「ここに居ていいんだ」と思える気持ちをまっすぐに届けてくれました。そして多くの方々からも、「うきは市に来てくれてありがとう」という気持ちを、私はこの3年間でたくさん受け取ってきました。

私が1年目からはじめた“子どもまちづくりワークショップ”という活動を続けているのも、きっとその延長線上にあります。誰かの思いやりが、社会の中での居場所をつくる。居場所が人を育て、まちの未来を育てる。そんな循環を、次の世代に手渡していきたいのだと思います。

このプロダクトの完成までに、およそ一年の歳月を費やしました。その歩みは福岡県協力隊新聞でも記事として綴ってきました。この記事は以て退任となりますが、改めて、関わってくださった皆さまに心より御礼申し上げます。皆さまのこれからの活躍とご多幸をお祈りしています。



Share To Design



NPO法人フウチ

福岡県地域おこし協力隊新聞

福岡の奥底からコンニチハ！～地域おこし協力隊新聞、お届けしてます～

「あれ？なんかアツい視線を感じる…」って思ったアナタ！
それはきっと、3ヶ月に一度、福岡県庁経由で各市町村に忍び込む、この謎のフリーペーパーのせいでしょう。
その名もズバリ、『福岡県地域おこし協力隊新聞』！

我々は、市町村の垣根を華麗に飛び越え、今日もどこかで地域の魅力をハント！
時には、まちづくりに励んでトラブったり、時には、過疎地のと真ん中で最新テクノロジーを駆使したりと、その活動は予測不能。

「で、結局何が書いてあるの？」ですって？フッフッフ…それは毎回、読んでの楽しみ！
ただし、美しすぎる風景にうっかり移住を決意したり、協力隊の熱すぎる語りにホロリと涙したりする可能性も否認しません！

県庁の偉い人も、各市町村の担当者さんも、油断しているとハマっちゃうこの新聞。
3か月に一度のお楽しみ、見逃し厳禁でずせ！
もしかしたら、あなたの住むまちの隠れたスター協力隊が、知らないところでとんでもないスクープをぶちかましてるかも…！？
福岡の未来は、今日も笑い汗と、ほんの少しの涙で回っています！

福岡県地域おこし協力隊新聞部は、“笑いの偏差値高めな同志”をいつでも募集中です！



- 芽組 Y x U | 一芯二葉 -

地域おこし協力隊 卒業制作プロジェクト

VOL.
31
2026.03



うきは市 三角 俊喜 永田 健泰 田島 彩央季
八女市 古庄 真苗
みやま市 金子 瑠美
篠栗町 五味川 ちひろ



福岡県地域おこし協力隊新聞
今回の卒業制作に至るまでの歩みなど、
左記にバックナンバーを掲載しております。
よかつたらのぞいてみてください！

編集・撮影・紙面構成： 三角 俊喜（うきは市）



芽組 Y×U | 一芯二葉
メッセージカード
桐箱

茶香炉用茶葉
アロマキャンドル
茶香炉

感謝の香 - Product Design -

この茶香炉は、うきは市協力隊三角、八女市協力隊古庄の卒業制作として、お世話になった方々への感謝の気持ちを、香り、に込めました。うきは市の一の瀬焼、八女市の白折茶葉、アロマキャンドルに至っては、うきは・八女・みやまの柑橘を使用し、茶葉の香りとの相性をもとに、オイルの蒸留とブレンドを行いました。

芽組 Y × U | 一芯二葉 - Logo Design -

八女の「Y」うきは市の「U」が、ひょひょなり共に伸びる。八女とうきはが「一芯二葉」として共に成長する姿を象徴します。

まだ開ききっていない若い芽「芯芽」は、同じ志を持って歩む協力の象徴。右上に向かって伸びるその曲線として、「成長」と「希望」の軌跡。左右に枝分かれする葉は、それぞれの地域が持つ個性や文化の広がり。

これからも、協力隊のつながりや共助の心を大切にしていきたい、その願いを込めて、未来へ向かう協力隊の姿をこのロゴに託しました。

縁を焚べて、香りを灯す - Concept Making -

この取り組みの原点は、うきは市の元協力隊・伊藤宏樹氏の柿農園で行った『柿ちぎりWEEK』でした。新規就農に向け収穫期の人手不足を協力隊の力で補い次の一歩を後押しする。そんな実践の場に八女からも多くの協力隊が集まり、自治体の枠を越えた出会いとつながりが生まれました。

そのご縁への感謝と、「次は私たちが支える番だ」という思いを胸に、今度は八女市矢部村で活動する矢部川クリステルさんの声かけをきっかけに、栗原製茶さんの新茶「玉露」の収穫へ。共助の心が、地域を越えて巡っていく…その小さな循環の芽生えが、私たちの中にあたたかい手触りとして残りました。

この茶香炉はそうした協力隊同士の交流と共助の萌芽を、プロダクトとして、がたち、にしたものです。上段と下段、ふたつが重なり合って、「田」をなす造形には、ふたつの地域から始まった、「えん(縁)」を結び、さらに広げていく、そんな想いを込めました。茶香炉の内部を通る空気の流れが香りを運び、出会いが次のつながりを運ぶように、輪が静かに広がっていく…

三角・古庄はいずれも、国選定重要伝統的建造物群保存地区のまちづくりをミッションとして、三年間歩んできました。そこでデザインモチーフには、共通点である『白壁・Shikabe』を選び、上段には白い釉薬、下段に釉薬を使わない、焼き締め、の技法を採用しています。白壁の静けさと、土の素朴さ。その対比が重なることで、地域の時間の層や、暮りしの温度を醸し出す器となります。

制作は、一の瀬焼・田中窯元の新窯によるもの。炎と灰がつくる自然な表情、手に取った人が気負わず日常で使える親しみ、その職人のこだわりと想いが、この制作の背景と響き合い、焚くたびに、思い出があたたまるそんなひとつの贈り物として結実しました。

茶香炉制作	田中窯元 田中 鶴夫 (うきは市)
茶香炉用茶葉	株式会社 山城屋 (八女市)
アロマキャンドル	福岡県 地域おこし協力隊新聞部
企画・制作	福岡県 地域おこし協力隊新聞部
うきは市	三角 俊喜 永田 健泰 田島 彩央李
八女市	古庄 真苗
みやま市	金子 瑠美



prototype C



prototype B



prototype A